

長野県立歴史館たより

2013年

冬号 vol.77



平成25年度

冬季展

山国の水害

～戌の満水と善光寺地震～

平成23年（2011）3月11日14時46分18秒、宮城県沖の太平洋の海底を震源とするマグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震が発生しました。それにあわせて波高10m以上、最大^{そじょう}遡上高40.1mにも上る巨大津波が起り、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらしました。後に東日本大震災と名付けられた大災害です。地震による揺れとテレビに映し出された津波の映像は記憶に新しいこと思います。

海に面していない長野県では、地震による津波の被害は心配ありません。しかし、津波でなくても河川の氾濫による水害が発生し、大きな被害を幾度となく受けました。主なものでも仁和の洪水（仁和4年・888年）、末の満水（正徳5年・1715年）、戌の満水（寛保2年・1742年）、善光寺地震による犀川の湛水と決壊（弘化4年・1847年）、昭和34年（1959）の台風7号による洪水、大西山（大鹿村）が崩落した三六災害（昭和36年・1961年）などです。

このように度重なる水害が発生した原因は、長野県の地形と地質にあります。飛騨山脈や木曽山脈、赤石山脈といった3000m級の山々はもちろん、県全体が急峻な山々で形成され、その間を千曲川や犀川、天竜川、木曽川などの河川が急勾配の流れをなしています。また、火山灰土の多い土壤や地滑り地帯が多く、ひとたび大雨が降れば、土石流等を引き起こします。さらに、糸魚川－静岡構造線

断層帯などの活断層がいくつも存在しており、この活断層によって地震が発生すれば、山体崩壊がおきて河川を堰き止め、土石流を発生させます。

今回の展示では、数ある長野県の水害の中から戌の満水と善光寺地震による犀川の湛水と決壊の2つを取り上げます。

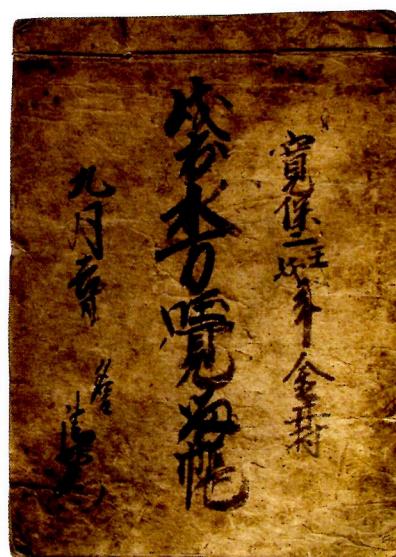
戌の満水は、寛保2年（1742）旧暦8月1日（新暦8月30日）に千曲川流域を襲った大洪水です。原因は、停滞した秋雨前線と台風の通過だと考えられています。被害は、流域全体で2800人以上の死者を出し、田畠の流出も広範囲にわたりました。

善光寺地震による犀川の湛水と決壊は、弘化4年（1847）に発生した善光寺地震の際に、更級郡山平林村（現長野市信更町）の岩倉山（虚空藏山）の斜面が崩落し、犀川に50mもの高さをもつ巨大な堰止湖（河道閉塞）ができ、19日間の湛水で上流の村々を水没させた後に決壊し、川中島平およびその下流に大きな被害をもたらした水害です。

この2つの水害の原因や規模、被害とともに、先人たちはどういうふうに水害に向き合い立ち上がっていったのかを展示します。先人たちが“満水”“山津波”“鉄砲水”“蛇抜け”などと呼び恐れてきた水害に、これからどのように対応していくらよいのかを考えるきっかけにしてください。



（『池田組村々地震二付家潰並荒所見取絵図』上原卓郎氏蔵）



（『戌出水万覚留帳』瀬田光興氏蔵）

平成25年度館蔵品展

平成26年2月1日(土)~3月9日(日)

戦前の観光信州

~パンフレットでたどる昭和初期の鉄道・山岳・温泉~

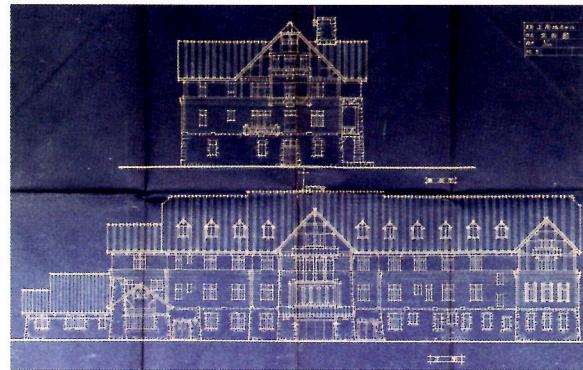
観光信州の誕生

信州といえば全国屈指の観光地の一つですが、観光客が押し寄せるようになったのはいつ頃からかご存知ですか。実は、県内の鉄道網が整備され、新中間層と呼ばれる経済的にも時間的にも余裕のある人々が登場した大正から昭和戦前期にかけてです。この時期、信州は観光地として全国に売り出していました。今回は展示会の1コーナーを飾る上高地についてご紹介します。

観光地上高地の誕生

上高地は、ウォルター・ウェ斯顿の『日本アルプスー登山と探検』(明治29年)により国際的に紹介されました。焼岳の噴火により大正池が形成(大正4年)されたあとも、上高地への交通路は徳本峠とくごうを越える登山道のみで、とても観光地といえる状態ではありませんでした。

昭和初期、上高地への霞沢発電所取水口建設計画にともなって行われた道路建設と、新聞社主催の観光地ランキングで「昭和の新時代を代表すべき新日本の勝景」の1つとして「日本八景」に選出(昭和2年)されたことで、上高地は観光地へと変貌を遂げていきます。大正11年(1922)に始まった国立公園調査でも有力候補の1つとされ、昭和9年(1934)、上高地を含む地域は国立公園「中部山岳国立公園」に指定されました。

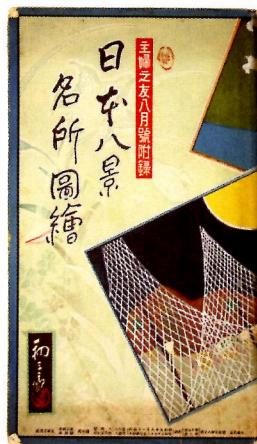


国際観光地上高地へ

昭和5年(1930)に設置された鉄道省国際観光局により国際観光政策が展開された1930年代、上高地は国際観光地として開発されました。当時の登山ブームに加え、関東と関西の中間に位置し、外国人登山客を引き受けることのできるポテンシャルの高い観光地として期待されたのです。

上高地の象徴の一つである上高地帝国ホテルが建設されたのもこの時期です。やがて訪れるであろう外国人観光客・登山者を意識し、スイスの山小屋をイメージして建てられました。当館所蔵の上高地ホーテル(現上高地帝国ホテル)の図面からは、当時の国際観光政策にかける意気込みや観光客、登山者への配慮を読み取ることができます。

本展示会では、当館所蔵の鳥瞰図、観光パンフレットなどから、観光地化していく戦前の長野県の様子をご紹介します。



(「浅間温泉より国立公園上高地へ」(部分) 当館蔵)

夏季企画展

信州の野球史をふりかえって

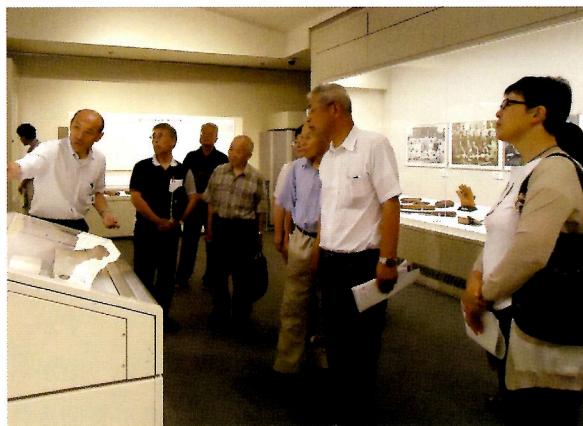
当館は、開館以来19年が経過しますが、スポーツをテーマにした展示会は、今回が初めてでした。45日間の展示期間で4600名ほどの来館者をお迎えしました。その折りの来館者、そして講演会や講座での聴講者の方々の顔ぶれは、これまで当館に来られたことが無かった方々や、当館の名前も知らなかった方々が多く来館されていました。また、NHK長野放送局チーフアナウンサーの政野光伯氏や長野県民球団信濃グランセローズ副社長飯島泰臣氏によるスポーツとしての野球を主題とした講演は、開館以来初めて歴史を主題としないものでした。お二方には、歴史館というイメージの中で、野球を題材にした講演を快諾いただきましたことに心より感謝いたします。



飯島泰臣氏による講演会

野球が明治6年（1873）の『小学読本』（長野県反刻）に紹介されて140年、そして昭和3年に深紅の大優勝旗が初めてアルプスを越え東日本の信州にもたらされ85年になるのを期に、今回は長野県民に明治時代以来親しまれ、大正から昭和初期にかけて全国屈指の強さを誇った全国中等学校野球の資料を中心に展示しました。

来館者の多くはもちろん野球好きの方々であったわけですが、特に熱心な方々からは「明治期から昭和初期にかけての野球道具や県内関連資料を見ることができてよかったです」、「優勝旗や準優勝旗を見ることができてよかったです」など展示資料への



展示解説

評価やご意見をいただいた反面、「長野県にはもっと著名な野球選手やプロ野球選手がいるが、その選手たちの関連資料が無くがっかりした」、「中等学校や高等学校野球の裏話の展示ができなかつたか。これは優等生の展示ではないか」などの厳しいご意見もいただきました。

今回の主要テーマである、なぜ全国屈指の強さだったのかについては、展示資料から「長野師範学校出身の先生による小学生への熱心な指導」、「蚕糸業による経済的豊かさによる道具の普及やグランド整備が進められたこと」など、その背景を見ていただくことが出来たのではないでしょうか。

当展示会から5年後には、春の選抜高等学校野球大会が開催され90回、夏の全国高等学校野球選手権大会が開催され100回を迎えます。今後、当館でも記念大会に合わせ、野球関係者や大会関係者など多くの方々からのご意見をいただき、展示内容等を検討して、再び野球をテーマにした企画展が開催できればと考えています。



見学する飯田OIDE長姫高等学校野球部の皆さん

夏休みイベント

石のアクセサリー・古銭マグネットを作ろう!

8月14日、15日の2日間、当館中庭「歴史のこみち」で「石のアクセサリー・古銭マグネットを作ろう！」の夏休みイベントを開催しました。

お盆に長野県に帰省された方々や子ども達など、およそ100名が、思い思いに石のアクセサリーや古銭の形のマグネット作りに熱中する姿がとても印象的でした。

石のアクセサリー作りでは、勾玉の他にハート型や鳥型、大珠など様々な型紙を用意し、材料となる滑石も白やピンク色などを自由に選んでいただけるようにして、好評をいただきました。



古銭マグネット作りでは、実物の貨幣にふれたり、職員から銭の歴史を聞い

たりしながら粘土をこねて古銭を作りました。

中には、ご家族で2日間連続でこのイベントに訪れた方もおり、違った形の石のアクセサリーを幾つも作りながら、親子のふれあいを楽しんだり、勾玉の魅力を語り合ったりする様子は微笑ましいものでした。



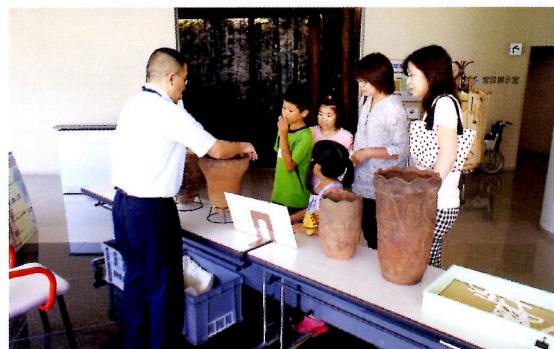
縄文人になって遊ぼう!

8月10日、11日、14日、15日の4日間常設展示室入口では、「縄文人になって遊ぼう！」を開催しました。

本物の縄文土器を持って、重さや質感を実感したり、縄文時代の衣装を身につけて記念撮影をしたりしました。アンギン編みの衣装を身にまとい、縄文土器を抱えると、身も心も縄文人に変身です。

中には、生まれて初めて本物の縄文土器を手にして、感動のあまり手が震えている子もいました。4日間で408名の方がこのイベントに参加し、親子で縄文人になりきってカメラに収まる姿がとても印象的でした。

また、今年から「缶バッジ」の製作・販売を始めました。ナウマン象や縄文土器の缶バッジなど全て歴史館オリジナルです。値段は1個100円です。エントランスの売店コーナーで販売しておりますので、歴史館を訪れた記念としてお買い求めください。



学校の見学でにぎわう常設展示室



本年度も長野県内の小中学生はもちろん、東京都などの小学生、史学関係の大学生の皆さんに見学にお越しいただいています。一日に1,000人以上の見学者があることもあります。

実物大の環境復元展示物を見たり、触れたり、体験したりすることで学校で学んでいる歴史を実感し、当時の人々の暮らしぶりや生き方に思いを馳せているようです。

歴史館では、見学にあたって、希望する学校には職員が展示解説を行っており、今年も多くの学校から好評をいただいている。見学後の学校からのアンケートの声を紹介します。

「歴史は覚えることが多くて苦手。」と言っていた子が、目をキラキラさせて解説を聞いていました。

実際に触れることができたり、教科書で見たものを自分の目で見たりすることのできる体験は、子ども達にとって大変に魅力的だったようです。多くの見学先の中でも、「歴史館が特に心に残った。」と、話している子どもが大勢いました。

大好評！ バックヤード見学

常設展示室の他に、考古資料のバックヤード（収蔵庫）見学も受け入れています。クラス単位で収蔵庫の中



を歩いて数万点におよぶ遺物を見学したり、動物の骨や人骨、石器、土器などをガラス越しではなく、直接ご覧いただいたりしています。

また、本物の縄文土器と弥生土器を持ち比べて重さや質感の違いを実感する体験もできます。バックヤード見学を終えた児童・生徒の皆さんからは、「縄文土器と弥生土器の重さが、あんなにも違ってびっくりした。」「縄文土器の方が大きく見えるのに、弥生土器の方が水がたくさん入ると聞いて、意外！」「本物の人骨をあんなに近くで見て、怖くなった。」など、バックヤード見学でしか味わえない実感のこもった感想が寄せられています。これから見学を計画される学校では、ぜひバックヤード見学をご検討ください。

見学後の感想ありがとうございます！

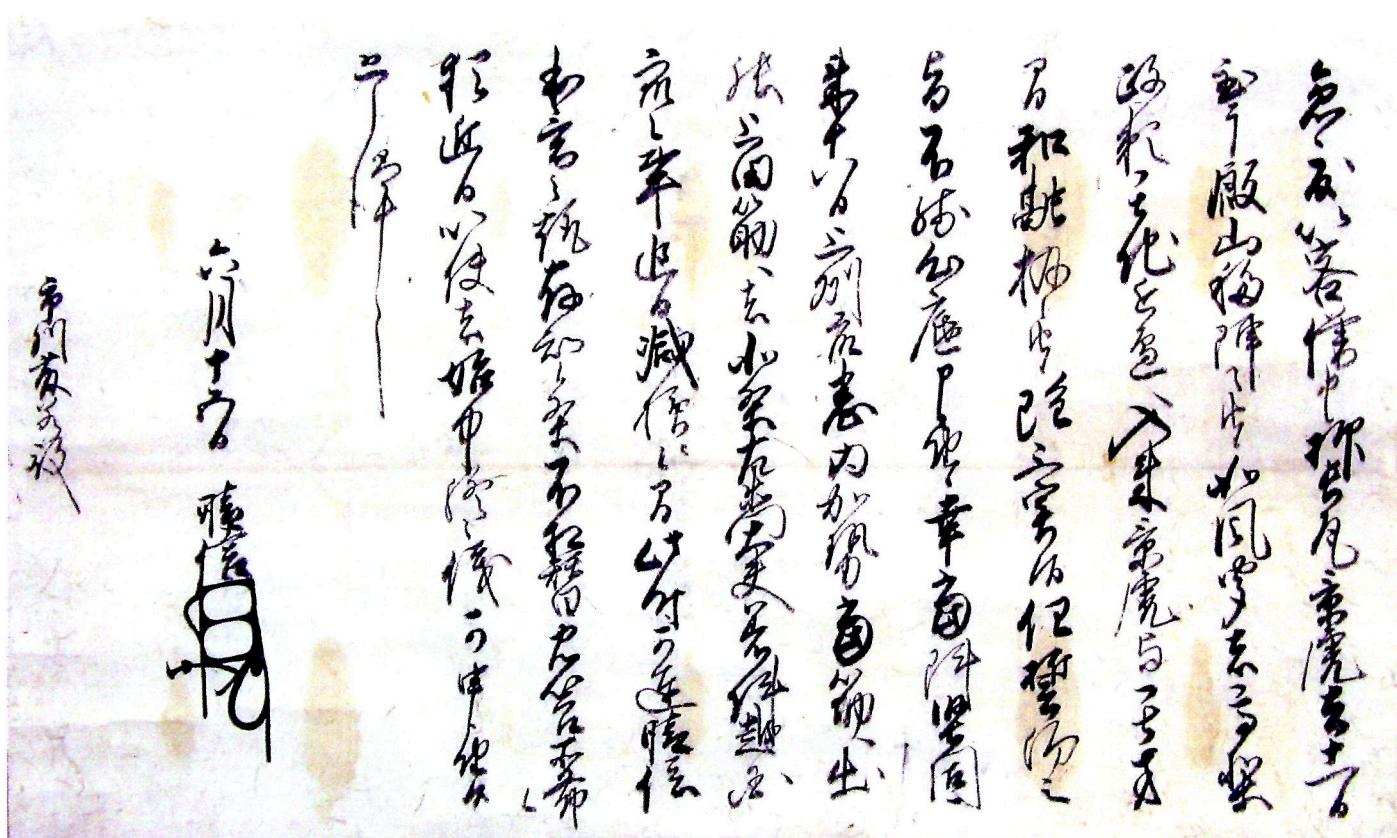


見学を終えた皆さんから、歴史館の見学で学んだことやお礼の手紙をたくさんいただきました。

当館職員も見学された児童・生徒の皆さんとの感想や礼状にふれる度に、「歴史館を訪れ、歴史が好きになってもらえてよかったです。」と、大変に嬉しい気持ちでいっぱいです。常設展示室入口に掲示させていただいている、本当にありがとうございました。

新収蔵品からI

武田晴信書状



形状：掛幅装 1幅 法量(cm)：縦26.0 長43.7

この書状は、6月15日付で武田晴信（信玄）が市川（河）藤若に宛てた書状の原本で、弘治3年（1557）のものと考えられます。平成23年度に収蔵資料に加わりました。山梨県立博物館には同じく武田晴信から市河（川）藤若に宛てた8日後の6月23日付の書状があります。両書状はその内容もさることながら、紙質、墨痕、花押などの特徴の比較により同時期の一連の書状であると判断されます。このことから、本書状は市河氏に伝來した文書の1通であったと考えられます。

市河氏は、鎌倉時代から信濃国高井郡中野郷西条、志久見郷などの所領を本拠とした武家で、戦国時代には武田氏に臣従しましたが、武田氏滅亡後は上杉氏の家臣となり、上杉氏の転封とともに信濃から会津さらには米沢へと移り住みました。さて、本書状はいわゆる第3回川中島合戦に関

わるもので、弘治3年2月、武田晴信が、善光寺北西の長尾（上杉）方の拠点であった葛山城を攻略します。これに対して長尾景虎（上杉謙信）は3月に出陣し、4月から5月にかけて北信一帯の武田方を攻めました。本書状の中で晴信は、6月11日に飯山に陣を移した景虎が、高梨政頼を通じて市河氏を味方につけようと動いていることにふれ、これに対応する武田軍の動きを伝えて、市河氏の変わらぬ忠節を求めています。また最後にあらためて近日中に使者を派遣するとも述べています。山梨県立博物館の6月23日付書状によれば、その使者とは後に武田の軍師として有名となる山本菅助（勘助）であったと考えられます。このように、本書状は山梨県立博物館の書状とともに、第3回川中島合戦時の武田方、長尾方双方の情勢を詳細に伝える貴重な史料であるといえるでしょう。

INFORMATION

インフォメーション



■2013年 2014年 11月～3月の行事予定

11月

秋季企画展

刃が語る信濃

2013年11／4(月)まで

12月

冬季展

山国の大水害

～戊の満水と善光寺地震～
2013年11/23(土)～
2014年1/19(日)

1月

休館日
1～3
6・14
20・21
27・28

講演会

11/23(土) 13時30分～
「善光寺地震、その時何が?
～犀川を塞き止めた大崩壊、
巨大湖を絵図から学ぶ～」
講師 山浦直人氏
(工学博士 当館客員学芸員)

講 座

12/14(土) 13時30分～
「戊の満水、その時何が?」
文献史料課長 青木隆幸

2月

休館日
3・4
10・12
17・24
25

館蔵品展

戦前の観光信州

～パンフレットでたどる
昭和初期の
鉄道・山岳・温泉～

2014年2/1(土)～
3/9(日)

3月

休館日
3・
10～12
17・18
24・31

講 座

3/1(土) 13時30分～
「観光パンフレットの
楽しみかた」
当館職員

長野県埋蔵文化財センター速報展

長野県の遺跡発掘

2014年3/21(金)～
6/1(日)

講座・イベント

やさしい信濃の歴史講座

第1回 11/30(土) 13時30分～
原 明芳 発掘された洪水
傳田伊史 古代の大規模災害
～仁和の大震災と洪水～

やさしい信濃の歴史講座

第2回 12/7(土) 13時30分～
塚田直道 土石流が村をのみ込んだ
～戊の満水と金井村～
白沢勝彦 絵図に記された千曲川の洪水

やさしい信濃の歴史講座

第3回 1/11(土) 13時30分～
福島正樹 浅間山大焼け
金澤大典 烧岳の噴火と大正池
第4回 1/18(土) 13時30分～
中野亮一 発掘された火災の跡
徳島隆治 希望の町“篠ノ井”
～関東大震災～

近世史セミナー

1/25(土) 13時30分～

やさしい信濃の歴史講座

第5回 2/8(土) 13時30分～
林 誠 明治三陸津波を描く
村松 武 (飯田市美術博物館学芸員)
遠山大地変と埋没林
～西暦714年の遠江地震との関連～

第6回 2/15(土) 13時30分～
市川正夫 火山灰におおられた日本列島
贊田 明 年輪は語る

第7回 2/22(土) 13時30分～
山崎会理 麻疹は命の品定め
～疱瘡は面の品定め～
宮本 博 わざわいを避ける
～木製祭具からみる古代の祈り～

歴史館セミナー②

3/8(土) 13時30分～

飯田市美術博物館連携講座

於：飯田市美術博物館
3/9(日) 13時30分～
傳田伊史 古代の大規模災害
～仁和の大震災と洪水～
村松 武 (飯田市美術博物館学芸員)
3/15(土) 13時30分～

霜田英子 絵画資料からみた
善光寺地震

櫻井弘人 天災と霜月神楽

(飯田市美術博物館学芸員)
～大地震に直面した人々の祈り～

春休み親子映画会

13時30分～15時
3/20(木)3/21(金)3/23(日)3/25(火)

表紙写真の説明

「弘化丁未春三月廿四日信州大地震山頽川塞湛水之図」

(柳澤虎一郎氏蔵)

この古絵図は、弘化四年（1847）の善光寺地震により岩倉山（虚空蔵山）が崩壊し、犀川が塞き止められた様子を表します。岩倉山の崩壊の状況や犀川の湛水の範囲を詳細に描き表しています。湛水は、名所の山清路近くの金熊川が犀川に合流する地点まで及びその規模の大きさがわかります。

行事アルバム



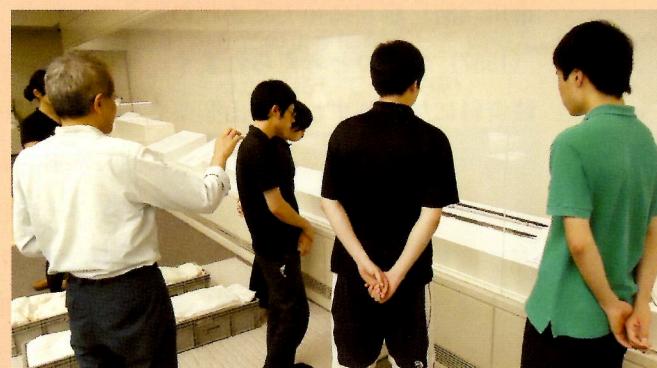
職場体験 8月28日(水)～30日(金)

長野市立更北中学校生徒の体験風景



職場体験 9月4日(水)～6日(金)

千曲市立埴生中学校生徒の体験風景



博物館実習 8月29日(木)から9月8日(日)までの10日間、
学芸員資格の取得を目指す大学生5名が博物館実習を行いました。
幅広い当館の業務に、積極的かつチームワークよく取り組んでいました。
写真は秋季企画展「刃が語る信濃」の準備作業中の1場面です。

長野県立歴史館たより 冬号 vol.77

2013年(平成25)10月18日発行

編集・発行 長野県立歴史館

〒387-0007 千曲市屋代260-6
電話 026-274-2000(代) FAX 026-274-3996
E-mail rekishikan@pref.nagano.lg.jp
ホームページ http://www.npmh.net

印刷 奥山印刷工業(株)